

# 番傘フェスタ2024

日時：令和6年3月3日(日) 12時30分開場  
場所：たかつガーデン(たかつの間) 出席者 185名



## 第一部 記念式典 司会 森 茂俊

○挨拶

番傘川柳本社主幹 田中 新一



本日は番傘フェスタ2024に大勢ご参加頂いて、本当に有り難うございます。

今日は、第一部式典が、先程幹事長から案内がありましたようにたくさんありますので、あんまり長いお話は割愛したいと思います。

で、お手元に皆さんたぶん今日のおみやげ、持って頂いていると思います。

中身を見られましたか。

まだ見られてない方、今、あけて中を見て下さい。

番傘のマークが入っています。これは成瀬國晴さんのデザインされたものです。

成瀬國晴さんは、阪神百貨店梅田店の8階の催し場で、今月の3月27日から4月1日まで、「阪神タイガース2023日本一記念・成瀬國晴個展」さあ みんなで今季もー」を催されます。

阪神ファンの方、どうぞご覧になって頂いたらと思います。

今日は総局長は九州と四国、それから北陸とおいで頂いています。

本日に有り難うございます。

それと今日、来賓として高岡秀造先生と作家の堂垣園江先生において頂いてます。

堂垣さんは、今、川柳にかかわる作品を執筆中で、大正のロマンを書かれておられます。

早く完成して下さいとお願いしている

の ですが、なかなか前へ進まないようです。皆さんもお願ひして下さい。今日は皆さん、ご出席を有り難うございました。

○新同人紹介 同人部長 毛利 元子  
諸富 幹夫(大分) 原 広子(奈良)  
西川 東岳(長崎) 中村八十八(佐賀)  
西上 遊二(大阪) 上坊 幹子(京都)  
吉井 楼太(宮崎) 和田 健史(徳島)  
野口 龍(兵庫) 奥野健一郎(大阪)

○永年同人表彰式

45年表彰 小梶 忠雄  
25年表彰 横井 幸子 染山 朝子  
竹明なおみ 瀬川 幸子  
中山恵美子 鈴木 昭子  
田中五十鈴

○第9回 水府賞 表彰

井本 健 治(大阪)

○第9回 番傘賞 表彰

青嶋 由紀美(愛知)

○第10回 磯野いさむ賞 表彰

植野 美津江(奈良)

第二部 記念句会

司会 銭谷まさひろ  
呼名・復唱 西 美和子  
記名・清記 中岡千代美

第三部 懇親宴

司会 森 茂俊  
くんじろう



写真・原田 幸彦  
正士

# 事前投句 「越える」

そら豆が春をオーバーランしてる  
越冬の能登を励ます応援歌  
激震にオールジャパンで乗り越える  
絵馬堂に越えたサクラが咲き誇り  
薬にもすがる七十二時間超え

真島久美子  
滝川 重人  
竹原 悦子  
石谷 恵子  
物部 初音

百歳を越える覚悟のウォーキング  
つらいことなどへ「っちら」と言う稗校  
いくつものしもを越えてぼくの今  
芋たこ南瓜隣の扉を越えて行く  
デジタルの波が頭を越えて行く

新家 完司  
西澤 知子  
山田 順啓  
吉井 ティ子  
上平 あきら



開会の言葉 / 片岡加代



第1部司会 / 森 茂俊

## 第1部 記念式典



新同人の方々



閉会の言葉 / 大西将文



第2部司会 / 銭谷まさひろ

## 第2部 記念句会



右から、呼名・復唱 / 西 美和子  
記名・清記 / 中岡千代美





田中 新一 謝選

(番傘川柳本社 主幹)

選者吟

越えるまで微笑むだけの父の壁

田中 新一

デジタルを越える手書きにある力  
 よいこらしよ声かけ合って上る坂  
 越えてきた山は穏やか晴れている  
 険しさを越えた数だけつく丸み  
 乗り越えた苦勞は言わぬ笑い皺  
 重いもの抱えて越える女坂  
 一病を抱えて越えた傘寿です  
 K点を越えた卒寿の心技体  
 百歳のほほえみ越えてきた山河  
 K点を越えて天使になりました  
 時空越え母は童話の森に住む  
 母の年越えて淋しくなる日暮れ  
 母という巨岩を越えるカタツムリ  
 父の年越えても父を越えられぬ  
 父の年越えて彼岸に遠く居る  
 山越えて父の太鼓が鳴り渡る  
 父を越え父が知らない老いを行く  
 越えてみてはじめて分かる父の恩  
 父を凌駕するライオンのたてがみ  
 時を越え水府理念を守り継ぐ  
 逆境もプラス思考で乗り越える  
 時空越え逢いに行きたいひとが居る  
 壁ひとつ越えろと変わる風の色  
 取り越し苦勞など幸せの証拠  
 人間を越えるAI功と罪

沖本 万喜  
 長尾 三幸  
 森 茂俊  
 藤田 和甫  
 平井美智子  
 岸井ふさゑ  
 神田 良子  
 大久保眞澄  
 荻野 浩子  
 中田 尚  
 栗原つや子  
 桑原すゞ代  
 小代千代子  
 田中美弥子  
 西谷 公造  
 佐藤 辰雄  
 西川 東岳  
 林 ともこ  
 青木 薫  
 富永 熙子  
 木嶋 盛隆  
 濱野とみ子  
 菱木 誠  
 原 広子  
 井本 健治

翔べる気がする適量を越えた酒  
 モナリザのほほえみ越える妻の笑み  
 私がわたしを越える本を積む  
 性別の壁越え栄える落語界  
 ライバルを抜いて異次元見たい  
 厚かった壁ひらがなで突き破る  
 いろいろな試練に耐えた笑いジワ  
 指切りげんまん淋しき乗り越える  
 老犬はもうこの溝を跳び越せぬ  
 ロイター板使って越えるバカの壁  
 逆境も跳ね除け明日へ向く笑顔  
 渾沌を越える力を信じたい  
 苦しみを感謝感謝で乗り越える  
 運命線越えて気ままな鳥になる  
 難関突破十八歳の春光る  
 恩讐を越えたところに花は咲く  
 おばさんを越えそとおじさんになった  
 修羅越えて無のひと文字がしみてくる  
 ジャスマンの越境ゆるしてる不眠  
 うぬぼれを味方にピンチ乗り越える

上坊 幹子  
 野口 龍  
 長谷川博子  
 辻 肇  
 上原 稔  
 仲村 周子  
 小寺八重子  
 藤本 鈴菜  
 弓山 アヤ  
 宗 和夫  
 桑原ひさ子  
 柴田 園江  
 三谷 史生  
 銭谷まさひろ  
 小川賀世子  
 熱田熊四郎  
 中岡千代美  
 片岡 加代  
 阪本きりり  
 松本 柊子



宿題

「充電」



上原 稔 選

(第8回水府賞)

選者吟

過充電昼まで続く二日酔い

上原 稔

温泉に充電中の顔が浮く 充電をし過ぎ体力もてあます 円空の森で私を蓄える 窓ぎわでしばらく猫になっている フル充電しても妻には歯が立たぬ 頻繁に充電がいる八十路過ぎ 三年も充電中と聞いている わたくしの膝は充電ステーション 充電の旅に出たまま帰らない 死ぬことは充電ですと言う恩師 ひぎの猫右脳左脳を眠らせる じいちゃんが充電をする年金日 言い訳は充電中だとバラサイト 文庫持ちスマホを置いて旅に出る 赤ちょうちん明日へ向かうエネルギー たっぷり充電します昼の酒 充電が続く止まらぬ山頭火 やり遂げたさあ充電だ純米酒 充電は何てたって森伊蔵 過充電ですねと酒を止められる 過充電見知らぬ街を千鳥足 レジ前で充電切れて無一文 充電も頻繁になる卒寿坂 幼子の寝顔がパパの充電池 週末に甘えに来たと嫁の声	田中 薫 三好 聖水 中武 弓 阪本 高士 木村 利春 西上 遊二 大久保眞澄 西 美和子 森口 美羽 成山きよし 阪本 高士 平井美智子 野口真桜子 山田 恭正 田中 薫 木嶋 盛隆 たむらあきこ 池田 武彦 西出 楓楽 菱木 誠 志方 智外 長井 喜隆 細田 貴子 西川 東岳 谷口委佐子	美女集め歌い踊って明日を待つ EV車充電切れたゴビ砂漠 充電を終えて五体が歌いだす 失業を充電中と言い換える 新妻のちよっと充電里帰り 充電旅行疲労困憊逆効果 充電は済んだ翼を広げよう 充電をしたら猫が虎になった 充電をしますスマホになってます サザエさんとアハアハのリフレッシュ 充電に行くふる里の風の音 たっぷり充電今日を駆け抜ける 空っぽの心コーヒー三杯目 八割の充電ばちばちと生きる SDGs地球ゆっくり休ませる まったりとして満タンにする心 充電と言えば聞こえのいい怠け 掃除機も充電中は休んでる 円空の仏の笑みにほぐされる 長電話だけじゃ足りない雪の道 充電を済ませた読経透き通る 空っぽの心へ酒がよく入る 満ちてくる潮四万十は昼寝する 人間に戻れる酒を今日も飲む 辞書を繰り語彙の充電惜しむまい	南 高士 神田 良子 藤田 和甫 長井 喜隆 中城 裕子 松井あもん 瀬川 幸子 みぎわはな 森田 律子 柴田 園江 仲村 周子 大堀 正明 津田 照子 神田 良子 原田 正士 濱野とみ子 林 ともこ 弓山 アヤ 沖本 万喜 物部 初音 古川 洋子 山本さくら 小笠原 望 田中 新一 久崎 田甫
---	--	--	--

宿題

「ひたすら」



真島久美子 選

(第4回水府賞)

選者吟

水が湧くまでは必死に辞書を繰る

真島久美子

ひたすら生きるドラえもんサザエさん ハチ公の爪の垢でも飲んで待つ 雑所得妻には言ったことはない 推考を重ね6B走り出す あの世では出会わぬように願かける 納豆をひたすらまぜる真人間 ひたすらへ大きな華が咲きました がむしゃらに生きてきたのね前のめり 忍忍ここまできたら笑いましょ マドンナも無言でカニにしゃぶりつく 光明が射すとは限らない一途 宮仕え首をひたすら縦に振る 猫売り場ただただ寝てる血統書 念仏のように介護のありがとう 被災地の祈るしかない雨しとど ガンバルと呪文のごとく書きつづる 本物の男をさがす世の広さ 月までの赤いリボンを握りしめ 劣情が液状化する丑の刻 隠しても酒がそろそろしゃべり出す おいしくなれおいしくなれジャム作り 染め一途自ずと藍に染まる爪 縫れ糸解き終えらともう夜中 片思い不法侵入罪かしら 負けへんで鏡の顔とにらめっこ	白井 箕子 大崎よしみ 長谷川崇明 広瀬 勝博 中原 京子 西出 楓楽 仲村 周子 原 広子 前中 知栄 大久保眞澄 鈴木 順子 西川 東岳 外澤とくろう 菱木 誠 川端 六点 堂垣 蘭 西 美和子 中武 弓 稲葉 良岩 長谷川崇明 片岡 加代 森 廣子 森田 律子 正信寺尚邦 田中 新一	天の声地の声を生きつづけよう 旧暦をひたすらめくる象の鼻 シベリアの塔婆援軍待っていた 駆けて来た一途の道にほら花芽 生きたいともがいた父の心電図 空のことばかり思っている小指 言の葉をひたすら追えばあ源氏 一徹のただ黙々と土を練る ひた走る妄念払うごとき背 シエラザード毎夜聴かせる物語 ブレイキンひたすら踊るゴミの街 たこ焼きパーティー蝸は熱くてたまらない 日に三度年に千度の台所 細腕で俺を育ててアンタ誰 祈ることばかり桜は根を見せて バランスは崩さずにごり水の中 それならば腕にケイタイ埋めとけよ いつまでも自分の尻尾追いかける トンカラリントンカラリンと今日の飯 暇な日はひたすら美術館にいる 只管がおわった葉桜になった 白鳥は北へ私はこの道へ 少年よ流線型になりなさい 髪の前まで耳にして君を聞く 爪のことだけを考え爪を切る	森中恵美子 くんじろう 正信寺尚邦 小川賀世子 阪本 秀子 平尾 正人 銭谷まさひろ みぎわはな 桑原ひさ子 矢沢 和女 西出 楓楽 西澤 知子 西川 東岳 みぎわはな 阪本きりり 中武 弓 吉岡まさお 大崎よしみ 山根 七七 長谷川博子 たむらあきこ 瀬川 幸子 くんじろう 平井美智子 新家 完司
---	---	--	--

宿題

「目覚める」



長谷川博子 選

(第3回水府賞)

選者吟

ブギウギに目覚め昭和が近くなる

長谷川博子

早朝に目覚めてしまう日曜日 大丈夫母は必ず目覚めます 雪の降る音で目覚める過疎の里 おだやかな夢に真夜中のサイレン ああそうかやはり投資の詐欺だった 思春期の目覚めた恋が加速する 目覚めたらクレオパトラになっていた ほったに畳のあとがある目覚め 人間に目覚めて化粧品売り場 突風に掘り起こされた腹の虫 三回忌一人の目覚めまだ慣れず 目を覚ますまでは可愛い妻である 虚と実の狭間で今日が目覚めます 大空へ向かい目覚めたシャボン玉 毎日が知らない文字で目が覚める 反抗期自我の目覚めがきたようだ 大丈夫森を抜ければ道はある 満ち足りた眠りに湧いてくる気力 試行錯誤ただだ生きる為だった モーニングコーヒー私魔女になる 雛人形の目覚めようやく春が来る 目覚めると戦争してた僕の国 裏庭の馬車がカボチャに戻ってた あれは夢だったか母が消えている 春よ春前頭葉に起こされる	川端 六点 鈴木 順子 西川 東岳 中武 弓 田吹 宗鉄 上坊 幹子 真島久美子 川端 六点 真島久美子 くんじろう 西川 東岳 宗 和夫 松本 柁子 西陣 五朗 森 茂俊 桑原ひさ子 柴田 桂子 毛利 元子 柴田 芽 真島 芽 瀬川 幸子 沼田 捷二 みぎわはな 片岡 加代 神田 良子	三文の徳ゆっくりと朝ごはん 迷いから目覚めて声がかくなる ボクも錆びてきた隙だらけの目ざめ これからという時いつも目が覚める 目覚めまでスマホに管理されている 五七五に目覚め余生が忙しい 日曜はゆっくりに寝ると言うたのに 熟睡できたこんなに嬉しパンを焼く 本能に目覚めて満月に吠える 湯気の立つ玉すっしり父になる 会議中五分休みに目が覚める シャボン玉ベチャッと割れた目が覚めた 惰眠から目覚め試練に立ち向かう 逆らった過去へ目覚める再生紙 迷いから覚めてわたくしらしくなる 目覚めたらラッキー朝日持ち帰る 春眠が光る源氏を口説いている 赤んぼの様に目覚めて伸びをする 近頃は旨いと思うカップ麺 じいちゃんが終活デパート始めてる 目覚めたら風もあなたも僕のもの 恋に目覚めてちょっとおなが減りました ヤマノオロチ目覚めさせたりせぬよに 目の前にやらねばならぬことばかり 気ままでもいいんだ私はおばあさん	岩田 明子 田中 新一 たむらあきこ 南 高士 八木 幸彦 小代千代子 大崎よしみ 掃部 博隆 菱木 誠 小川賀世子 外澤とくろう 片岡 加代 毛利 元子 古川 洋子 鈴木 栄子 前中 知栄 柴田 園江 森 廣子 藤田 和甫 原 広子 桑原すゞ代 細田 貴子 瀬川 幸子 田中 新一 大久保眞澄
---	--	---	---

宿題

「型破り」



新家 完司 選  
(川柳塔社 理事長)

選者吟

表札を古代エジプト文字にする

新家 完司

没句だけ披講秀句は会報で  
飄々と八冠とって道半ば  
パソコンもスマホも持たぬ稀有な人  
銀行の社宅で浮いた過去を持つ  
顔は地味だがファッションは型破り  
授業中寝言を言ったことがある  
余命宣告お灸で越えて元気です  
花の下河童の皿に酒をつぐ  
たんぼの向日葵になる種貰う  
オノマトペ砕き金平糖つくる  
袈裟を着て頭は茶髪耳ピアス  
ハルカスのバンジージャンプ予約中  
串カツ屋三度漬けまで許します  
カルピスで溶けば哀しみ甘くなる  
袴にブーツ海の方こうに明日を見る  
古稀過ぎてスタントマンで飯を食う  
年寄りのモヒカン刈りは羨まし  
サファリツアー熱望のおばあさん  
八十路越えロックにはまるおばあちゃん  
給料明細を見せられました初デート  
仏滅に再婚大安に離婚  
結婚式より華やかな離婚式  
ロボットがずらり令和の入社式  
鯉濃を鰻で啜るクリスマス  
デザートにたこやきが出るメニューで

川端 六点  
高橋太一郎  
西上 遊二  
原 広子  
中武 弓  
松岡 篤  
木村 利春  
森中恵美子  
大崎よしみ  
熱田熊四郎  
播本 英二  
中武 弓  
西澤 知子  
桑原すゞ代  
川西早希子  
清水久美子  
谷口 東風  
植野美津江  
中原 京子  
中岡千代美  
倉 周三  
平尾 正人  
真島美智子  
杉野 羅天  
巽 俊一

勉強がしたい八十路で大学へ  
人間が好きで自分を曝けだす  
サグラタファミリアいつ完成するの  
針の無い釣り糸垂れて今日も釣り  
ガニ股で来るか御所車で来るか  
おっぱいより甘酒好きなお赤ん坊  
居酒屋をぬけてスイーツのやけ喰い  
絶世の美女になりきる次男です  
パートナーですと同性連れてくる  
スカートがユニセックスになっている  
新築のプランに金の天守閣  
ラテン語の恋文でサウナに誘う  
飲み放題の生前葬をやるらしい  
ブギウギを葬送曲と決めている  
予約しておこうピンクの霊柩車  
霊柩車は赤いボルシェに決めました  
桜花賞にはシマウマを走らせる  
羊羹をバナナみたいに剥いて食う  
居心地がよいと退院せぬ夫  
川向こうにすぐ手を合わせる医者がある  
匍匐前進で縄のれんをくぐる  
大阪に生まれ育って巨人ファン  
金色のボールでトラの始球式  
公園の散歩ライオン連れてくる  
刺青の腕が瓦礫を片付ける

松岡 篤  
田中 新一  
原田 正士  
森 廣子  
森田 律子  
みぎわはな  
植野美津江  
山根 七七  
仲村 周子  
真島久美子  
くんじろう  
稲葉 良岩  
平井美智子  
北川ヤギエ  
真島久美子  
細田 貴子  
くんじろう  
山本さくら  
奥野健一郎  
小笠原 望  
森田 律子  
敏森 廣光  
川端 六点  
木嶋 盛隆  
みぎわはな



宿題

「咲く」



森中恵美子 選

(番傘川柳本社 名誉顧問)

選者吟

独り飯咲かせるものを食べている

森中恵美子

復旧が進まぬ街に赤い花  
被災地に咲いた桜は美しい  
やり遂げた心に花が咲き誇る  
朝市で話の花を咲かせよう  
世界中咲かせて日本の桜  
赤白黄色パワフル全開春ページ  
真っ白に咲いて喧嘩を売っている  
終章は咲かせた愛で結びたい  
ウクライナひまわりだけが咲き誇る  
うす桃色でいつまでも咲く女  
保育園スミレたんぽぽ笑い合う  
悲話抱いて美しく咲くタカラヅカ  
涙くん横で咲いてもいいですか  
四季の花咲かせて女ひとりぼち  
おはようを今日も咲かせるシクラメン  
三分咲きの椿とリフォームの話  
一年の愛で咲かせる桜守  
だいじょうぶ大丈夫よと咲くミモザ  
桜咲く素直に好きと言っただけ  
指先にてんとう虫が咲いている  
感謝して歩いた跡に花が咲く  
知恵は全開な花は咲ききった  
冬籠もる孫もどうにか咲きました  
湯豆腐をやっと掬えて返り咲く  
母さんの夜食レンジの中で咲く

田中 新一  
山藤 聖子  
仲村 周子  
瀬川 幸子  
古川 洋子  
長尾 三幸  
森田 律子  
宮本 緑  
辻 肇  
西 美和子  
新家 完司  
柴田 園江  
森田 律子  
小川賀世子  
片岡 加代  
西澤 知子  
上平あきら  
桑原すゞ代  
川西早希子  
真島久美子  
南 高士  
長谷川博子  
上原 稔  
辻 肇  
くんじろう

花びらがひらき虚しさ越えてゆく  
咲く朝はあなたにだけは知らせます  
たまゆらのいのちいっぱいくらばな  
咲いて散る定めと知って欲が出る  
おでん鍋恋がフツフツ咲いてます  
ウクライナにガザに桜を贈りたい  
胸の内花咲か爺を住まわせる  
ひっそりと自己主張して冬のバラ  
ほとんどの人が名もない花という  
踏まれてもそっと咲いてる笑ってる  
寒椿咲いて散っても詩になる  
来る来ない花びらひとつ待つも恋  
酔うにつれあなた好み色に咲く  
あの蕾きつと真っ赤だ大輪だ  
サクラサク届け合格咲き誇れ  
握り拳開くと花が咲きました  
弁当の予約を急かす七分咲き  
散るために咲くひとひらの潔さ  
ネットに乗ってやってくるサクラサク  
アスファルト割ってすみれの人間味  
狂い咲きしてますおもしろく生きて  
明日咲く花は笑いが止まらない  
おもいきり咲いたとうれしそう桜  
咲く場所を心得ている花の種類  
桜咲く別れましょうと決めました

田中 新一  
桑原すゞ代  
原田 正士  
林 ともこ  
西 美和子  
柴田 桂子  
湯澤 孝扇  
毛利 元子  
播本 英二  
細田 貴子  
小代千代子  
大崎よしみ  
掃部 博隆  
長島 敏子  
竹原 悦子  
平尾 正人  
沼田 捷二  
穂山 常男  
年梅 道子  
田中 薫  
荻野 浩子  
西出 楓楽  
植野美津江  
たむらあきこ  
広瀬弥生子

# 2024 傘フェスタ

令和6年

3月3日(日)

たかつガーデン(たかつの間)



受付風景



投句風景

乾杯の音頭をとる  
田中主幹



傘フェスタ2024 懇親宴



お孫さんに祝福される  
植野美津江さん



仲睦まじい高士、きりり夫妻のデュエット



傘フェスタ2024 懇親宴

宴たけなわに名誉顧問が自慢の喉を披露



懇親宴の最後は全員手をつなぎ『ふるさと』を合唱



恒例の手工品も飛び出しました